

政策01 環境と調和する都市の構築

評価項目	評価	コメント
施策02 人と地球にやさしい環境の創出	概ね適切	検討事項あり

【参照：資料 - 6】

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
<p>【施策の環境変化・課題】 ●世界的な水不足・砂漠化現象に加え石油代替エネルギー確保のためバイオ燃料の増産が加速しているが、食料との競合や森林伐採の増加など、地球規模の新たな問題が生じている。</p>	<p>「食料との競合」についてももう少しわかりやすく記載すること。</p>	<p>下から3行目のバイオ燃料の増産と関連する。世界的に燃料用作物栽培のため森林を伐採したり、食料を燃料用に回したりという事象を「食料との競合」という表現で記載した。次年度はわかりやすく記載する。</p>
<p>【施策の達成状況】 「地球にやさしい生活をしている市民割合」は横ばいの傾向にあり、今後も継続して環境に配慮した行動について、市民や事業者への啓発に努めていく。 「公害発生件数」は0件であり、今後も基本事業を進めることにより維持に努める。</p>	<p>市民割合の横ばいになっている要因についての分析やわかりやすい表現を検討願う。 市民や事業者への啓発に努めるとあるが、抽象的な言葉なので具体的な表現を加えることを検討願う。</p>	<p>表現について検討する。</p>

担当部署の評価内容	委員の意見
<p>【施策の成果指標】 ①地球にやさしい生活をしている市民割合 ②公害発生件数</p>	<p>この施策は、基本事業が3本だが、環境教育や学習部分が全体指標の中にはない。 江別市の場合産学連携の環境教育をやっているという特徴があると思う。そういうものを一つ指標としていれることが「江別らしさ」の取り組みとしてぜひ指標として欲しい。 そういう取り組みを積極的にしている学校数とか、実際に江別における環境教育の項目を取り上げている数や進捗状況というのは数値化できる。 成果指標を見える形とすることが環境に対する市民意識の向上につながり、より市民が認知しやすいものになるのではないかと。</p>

政策01 環境と調和する都市の構築

評価項目	評価	コメント
施策02 人と地球にやさしい環境の創出 基本事業01 地球環境保全への取組	概ね適切	検討事項あり

【参照：資料 - 7】

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
<p>【事業の達成状況】 「省エネに取組んでいる市民割合」は横ばいの傾向にあり、また「環境配慮活動に取組んでいる事業所数」は増加している。 地球規模での温暖化対策や環境問題を克服するためには、市民・事業者の環境配慮行動が重要であることから、市民環境講座や環境経営セミナーなどを通じ、住民等の意識の向上を図りながら環境保全への取組みを推進する。</p>	<p>原因分析の記述がない。環境意識の浸透や企業のイメージアップ戦略、法令遵守等の話があったが、記載することで今後の改善、改革に結び付けていただきたい。</p>	<p>次年度の評価で原因分析について記載する。</p>

11

担当部署の評価内容	委員の意見
<p>【事業の成果指標】 ①省エネに取組んでいる市民割合 ②環境配慮活動に取組んでいる事業所数</p>	<p>目標値が妥当かどうかという判断基準が見えない。市で考えている配慮に取組んで欲しい事業者数のうちの30件という形で、パーセンテージで出せないか。 施策の環境変化には食料の供給や代替エネルギーの問題など、明らかに農業経営に密着する言葉が出ている。事業所の中に農業経営の環境配慮型の活動というものを対象として指標にできないか検討願う。</p>

政策01 環境と調和する都市の構築

評価項目	評価	コメント
施策02 人と地球にやさしい環境の創出 基本事業02 安全な地域環境の保全	概ね適切	検討事項あり

【参照：資料 - 7】

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
<p>【事業の達成状況】 H21年度の基準超過事業所数は0件であり、これまでの行政の立入調査（観測・測定）や指導・監視・啓発による効果があったと考える。今後とも、公害事件発生を未然に防ぎ、地域の快適で安全な環境の保持のため、指導等の活動を進める。</p>	<p>排出規制基準値超過事業所数について、これがどんなことを表しているのか、また市民の立場でクリーニングや銭湯とか、そういった事業所についてはどのように把握できるのかとか、安全という視点で市民の目線としてわかるような表現ができないだろうか。</p>	<p>表現について検討する。</p>

政策01 環境と調和する都市の構築

評価項目	評価	コメント
施策02 人と地球にやさしい環境の創出 基本事業03 環境教育・学習の推進	概ね適切	検討事項あり

【参照：資料 - 8】

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
<p>【事業の達成状況】 「環境活動参加市民割合」は、横ばいの傾向にある。今後も事業の創意工夫に努め、学校教育への出前講座の充実や日常生活における環境負荷を分かりやすくPRするなど、環境問題を身近な問題として捉える機会を設定しながら環境負荷軽減の行動意識を高める。</p>	<p>原因分析がなされていない。 具体的に環境活動に参加されている方々の年齢層、男女別、地区別にどうなっているのかなどが見えてこないと打ち手が見えてこない。きちんと達成状況に記載して考えていくことが必要ではないか。</p>	<p>次年度以降の評価で原因分析についても記載する。</p>

担当部署の評価内容	委員の意見
<p>【事業の成果指標】 ①環境活動参加市民割合</p>	<p>環境活動参加市民割合が成果指標に設定されているが、意図に記載されている「意欲を高める」部分は、確かにこれでわかる。「能力を高める部分」について付け加える必要があるのではないか。</p>
	<p>もう少し積極的に活動について表示するほうがよい。小中学校児童への環境学習の実施、市民環境については別添資料にもあり、この辺について表現すべき。</p>